

## 第5編 礼文島

● 7月11日(土) 曇/晴 移動～礼文島4時間コース

・朝4時、外はまだ霧雨が降っている。4時半起床、雨はなんとか止みそうだ。ペットボトルの水で歯を磨き、昨夜半分残した鮭弁当とみそ汁で朝食を済ませた。ベッドをたたみ6時にフェリーターミナルへゆき礼文島への往復フェリー券を購入した。6時20分に第一便が出た後待機用駐車場に車を止めてターミナルへ。ターミナルは新築のためえらくきれいで受付嬢も皆さんきれい。トイレもウオッシュレットで、ゆっくりと気持ちよく朝の支度を完了した。



<乗船待機は私1台・寂しい>

7時過ぎに乗船開始しどんよりと雲の厚い稚内港を7時半の定刻に出航した。積載の車は乗用車4台、トラック1台、小型バス1台の6台のみ、車両甲板はガラガラなので船室もガラガラかと思ったが、団体客がわんさといて満員だ。こんなに朝早くからみなさん元気がいい。天気は悪く雨だが波は穏やかでほとんど揺れることなく快走し、これまたどんよりと曇って今にも雨の降り出しそうな礼文島・香深港へ9時半に入港した。



<広い車両甲板には6台しか>

・さてこれからどうやって過ごすか、天気も良くないし、まずねぐらを探さなければ。案内所でコンビニがあることを確認してまず一安心。風呂は香深と船泊にそれぞれ町営の銭湯があることは確かである。この秋完成予定の立派な日帰り温泉「うすゆきの湯」が香深港横に建設中、宿泊施設もあるらしいが今回には間に合わない。話しに聞いた「駐車公園」は香深井のそばらしい、とにかくまだ行ったことのないスコトン岬を目指して北上してみることにした。



<今にも降り出しそうな香深に上陸>

・今にも降りそうな曇天の下を北上、まずコンビニ・

セイコーマートを確認、なかなか大きな店で十分買い物出来そうだ。香深井にあるキャンプ場「緑ヶ丘キャンプ場」に行ってみたが水道やトイレが管理棟の中にあり、かなり使いにく

そうなのでやめた。次に香深井の先で「駐車公園」を確認。10数台止まれる立派な駐車場にトイレが完備、これなら十分滞在可能、ここに滞在することにした。これですべて準備完了。あとは礼文島内の散策をするだけだ。

・スコトン岬を目指して北上するにつれてだんだん空が明るくなり、内路あたりになると陽が差し始め北の方には青空も見えてきた。ひょっとすると天気が良いのかなと期待しながらスコトン岬へ。なんとそこは太陽の光が降り注ぎ、久しぶりで経験する真夏の空、青い海が広がってすばらしい景色が展開していた。礼文島は南北に長いから北と南ではこんなに天気が違うことを知った。



<スコトン岬は快晴だった>

・時計を見るとまだ11時過ぎ、この天気ならまだ十分歩ける。急遽4時間コースを歩くことにした。香深方面、上りのバスが11時54分に出る。それで浜中まで行ってそこから歩いてここへ戻ってくる4時間コースを歩くことにした。バスが出るまでスコトン岬のベンチでトド島と青い空、青い海を眺めながらゆっくり昼食を取った。

・浜中にはバスで12時過ぎに到着し4時間コースのスタートを切った。西上泊・澄海岬に向け舗装道路を40分、真夏の太陽の下一人で黙々と歩く。誰もいない。



<レブンアツモリソウ群生地>



<絶景の澄海岬>

・途中レブンアツモリソウ群生地の前を通ったがもちろんシーズンオフのため閉鎖されていた。澄海岬からの眺めは緑の断崖と青い海が展開していてすばらしい。バスで来ている観光客で混雑している。ここから4時間コースの山道へ入る。笹原のアップダウンが続く絶景の海岸線を歩く。ヨツバシオガマ、ハマナス、チシマフーロ、エゾカンゾウなどおなじの花々が咲いているが、種類も数もあまり多くない。





でも天気が良いので実に気持ちが良い。今朝香深についたときの曇天が嘘みたいだ。



<ゴロタ岬からスコトン岬方面の遠望>



<廃校となった須古頓小学校>

ゴロタ岬からはスコトン岬やトド島方面が遠く見渡せて、4時間コースも終盤に来たことが分かる。スコトン岬へのバス道には7年前に廃校になった須古頓小学校が草ぼうぼうで建っておりなにか寂しさを感じた。スコトン岬の駐車場には16時前に到着。快晴のもとすばらしい礼文島の初日だった。

・船泊で町営の銭湯(船泊湯)に入って汗を流し、セイコマートで明日の朝食やお昼のお弁当などを調達して、宿泊地と決めておいた「駐車公園」に着いて夕食の支度にかかった。周りには和泉、高知、北九州など西の方のナンバーが数台止まって同じように夕食の支度をしている。今日の写真の整理をし、夕食を食べながらみんなと会話がはずんだ。私の今日の夕食は焼きそば。真正面には暮れゆく夕空に浮かんで利尻島・利尻山がくっきりと聳えて見える。すばらしい所だ。



<真正面には利尻山が聳えて見える>

明日も天気は良さそうだ。8時間コースをリベンジしようと思い8時前に寝に着いた。

● 7月12日(日) 快晴 8時間コース

・朝起きると目の前には利尻山がくっきりと聳えて見えた。今日は快晴だ! 「駐車公園」は利尻山を真正面に見るすばらしい所にある。

・今日は当然8時間コースを歩くことにした。朝食と朝の支度を済ませ5時45分に駐車場を出て香深発に向かった。隣に泊まった北九州のご夫婦は今日礼文島を離れると言うのでお別れの挨拶をして出かけた。



<目を覚ますと眼前に利尻島が>

・香深港を 6:15 発のスコトン行きバスに乗車、朝早いのに結構 (20 人位) 乗客がいる。登山姿のお嬢さん 3 人組がいたので「今日は 8km コースを歩くの?」「いいえ、私たちは礼文岳を登るの」。当然だねと頷いた。内路で降りたのはこの 3 人だけだった。途中バスは礼文空港方面、金田ノ岬を回って行くがここでアザラシの群れが (ごまふ?) 岩の上に上がって日光浴をしていた。バスは親切にも最徐行してわれわれにその光景を十分見せてくれた。昨日と同じ浜中でバスを下りたが、降りたのは私一人だけで、あとは皆さんスコトン岬へ行ってしまった。今日はここ浜中からたった一人の 8 時間コースの旅が始まった。

・昨日も歩いた浜中からの舗装道路をしばらく歩き、途中から 8 時間コースを左へ折れる。一昨年は雨と霧の中を歩いたが、リベンジの今年は快晴、視界を遮るものは何も無い、広々とした草原が延々と続く。

こんなに天気が良くおまけに日曜日だというのに、この 8 時間コースを歩く人は誰もいない。昨日の 4 時間コースはかなりの人が歩いていたが、今日の 8 時間コースは、私一人だ。このコースは長時間歩くわりには変化があって面白いのは前半のウエンナイまでで、後半は花も殆ど無く林道をひたすら歩くだけで面白くないので、あまり人気が無いのだろう。

・まずレブンシオガマ、タカネナデシコなどが咲く内陸の広大な草原を突っ切り、ハマナスや色とりどりのイワベンケイが咲く岸壁を下ってアナマ岩の海岸に下りる。

・海岸にはハマベンケイソウが実に美しい空色の花を鈴なりに付け、



<淡い空色のハマベンケイソウ>



<アザラシの群が日光浴>



<広々とした草原が延々と続く>



<アナマ岩の海岸に下りる>



<礼文島固有種・レブンソウ>



紅いレブンソウがそこここに咲いている。これらの花に囲まれてウエンナイのそばの海岸で一休み、昼食を取った。

・レブンソウ、ハマベンケイソウは咲いていたが、一昨年アナマ岩からウエンナイ周辺で見かけたチシマゲンゲ、ネムロシオガマなどは見られなかった。どうも少し時期が遅かったようだ。ウエンナイから海岸を離れ島の中央部へと急坂を登る。容赦なく照りつける真夏の太陽の下、大汗を流して香深へ通じる林道に出た。林道へ出る少し手前で、礼文島に咲く花を趣味にしているという女性（おばさん）住民に会い、コフタバラン、アカバナ、クモキリソウ、コケイランなど小さくて見落してしまう花々を教えてもらってラッキーだった。

・林道を香深へむけてひたすら歩く、すると「268mピークー市街」という道標があり左へ折れる道が付いている。若干登りがあるが香深への近道になりそうだ、一昨年はこのあたりから香深への道がいやになるほど長かった記憶があり、まよわず268mピークを目指して左折した。真夏の一番暑い時間帯の2時前に最後の登りで汗を流し到達した「268mピーク」には疲れも暑さも吹っ飛ばすようなすばらしい眺めが開けていた。真っ青な海原の中、真正面に利尻島がでんと聳えて見え、足下には色とりどりの花が咲き乱れる花畑、眼下には香深港とそこに出入りするフェリーが航跡を残して走っているのが見える。今日の8時間コースは最高の景色を見て幕を下した。



＜ウエンナイの部落＞



＜コケイラン＞



＜香深港に出入りするフェリー＞



＜お花畑と利尻山の絶景＞

・スキー場の中の道を通って香深の街へ直接下れたのでかなりのショートカットになり、香深港へ3時前に到着、8時間コースを終了した。風呂へ入りたいが町営の銭湯「北限の湯」は4時からなので、待ち時間を利用してターミナル横の公園の水道で洗濯を始めた。下着2組、短パン1本、Tシャツ2枚の他靴下などを手洗いで。公園のベンチで休んでいた土地のおじさん、おばさんと「今日は雲ひとつ無いすごい天気ですね」「今年は雨ばかりで、やっと今日晴れたんだ、暑いね！今年は作物も花も全然良くないよ。」などと話をしながら洗濯して楽しいひと時を過ごした。

・4時開店と同時に銭湯「北限の湯」に飛び込み、風呂にゆっくり浸かって今日の疲れを癒した。帰り道にセイコマートに寄っている買い物をして、常駐場所の「駐車公園」に着いたが、まだ早いからかなんと今日は一台も止まっていない。今夜は私が独占か。



<今日の泊まりは我が車一台>

ソーセージとキンピラでビール・酒の宴会、野菜沢山入りのラーメンで夕食。日は落ちたが空はまだ明るい。正面の海の向こうには利尻山がくっきりと聳えてみえる。今日は快晴に恵まれた素晴らしい一日だった。今6時17分、やること無いからもう寝る。Good Night！！

● 7月13日(月) 曇 礼文滝

・昨日の快晴が嘘のように濃い霧に包まれて朝が明けた。なぜこんなに劇的に天候が変化するのだろうか。

・昨日の疲れが出て今朝は五時半まで熟睡した。昨夜寝るときは我が車一台だったが、今朝起きて見ると5台も泊まっている。五目飯に味噌汁の朝食、ヨーグルトも付けた。隣の車は三重ナンバーなので「三重はどこですか?」「笹川です」との返事。笹川なら齋藤貞夫の居るところ、「齋藤貞夫を知っていますか?」ご夫婦とも知らなかった。笹川は広いのかな。



<今年はほっけを一本もらった>

徳島のおじさんが「ほっけをいっぱい釣ってきたからやるよ」と数本持ってきたが、今年の鮭の

こともあり断ったが、結局1本いただくことになった。「煮魚にすると旨いよ」と言われても「調味料を持ってきていない」というと、醤油と砂糖を分けてくれた。早速ぶつ切りにして煮魚調理に取り掛かった。結構旨そうに出来上がった。これでしばらくは酒の肴に不自由はしなくて済みそうだ。

・もう 8 時を過ぎている。周りを見るとみなさん出かけた後で私の車だけ取り残されていた。天気予報によると当分天気は良くないとのこと、小雨も降ってきた。しばらくのんびりしようかと思ったが、ここにいてもしょうがないので車で桃岩方面に行ってみることにした。

・車一台がやっと通れるほどに狭い道を桃岩駐車場まで車を入れた。観光バスはととも入れないので、下の車道路沿いに路上駐車して、何組もの観光客はこの道を歩いて登ってくる。

わたしはこの観光客を掻き分けながら車で上った（申し訳ないね）。今日は天気が悪い平日で、車も人も少ないから良いが、人、車が多いときはどうするのだろうか？上には車数台分の駐車場が整備されているので車で上ってきてもいいのだろう。

・雨は降っていないが冷たい強風に打たれながら桃岩まで散策路を登る。両側には数多くの花々が咲いていて、天気が良いればさぞすばらしいところだろうかと思った。桃岩展望台は霧がかかっていて展望が無く残念、桃岩を後にした。道を歩いている人を道端にかき分け



<桃岩展望台には霧が>



<猫岩>



<地藏岩>

ながら下の車道まで下り猫岩へ車を走らせた。海岸線は霧が無く展望は良い。つぎに元地のメノウ浜、続いて地藏岩へと車でまわった。車でないとこんなに隅々まで回れない、せつかく車を礼文島まで運んだのだから回れるところはみんなまわろう。でももうこの辺では行くところが無い、時間はまだ昼前だ。雨はなんとかもちそうだ。

・よし礼文滝へ行ってみようと、急遽林道を礼文滝入り口まで車を走らせた。



<林道の礼文滝入り口>



林道はレブンウスユキソウの群生地へ向かうハイカーで結構混雑している。ここでも大変申し訳ないがハイカーをかき分けて進む。それにしてもこんなに天気の良い平日の月曜日にずいぶん多くのハイカーが来ているものだ。レブンウスユキソウの群生地を過ぎると誰もいなくなり快走、礼文滝入口へ車を止めた。いつ雨が降り出すか分からないので、急いで出発した。

・多少アップダウンがあるがいろいろ花が咲いていてなかなか気持ちの良い楽しい道を約一時間半歩いて滝に到着。山中の岩場を落ちる滝では無く、最後の岩場を海岸に落ちる滝なので、結局海岸まで下りることになり、標高差約170mを下った。期待したほど立派な滝では無かったし、雨が降りそうだし風も強いのですぐに引き返した。滝にはご夫婦が一组、帰り道では数パーティーとすれ違った。帰り道の途中でチシママンテマの花に出会った。一昨年はアナマ岩で出合った花だが今年は見られなかったなのでここで出会えてラッキーだった。結局雨に降られずにすんだが風が強いのは閉口した。



<礼文滝>



<帰り道で出合ったチシママンテマ>



<ほっけの煮つけがメチャ旨い>

・林道を香深へ戻らず香深井に抜けて駐車公園へ戻ったが、まだ早いので買い物が出てふたたび香深ターミナルへ遊びに出かけ、帰り道にセイコマートで食料など買いこんで、3泊目となる駐車公園へ落ち着いた。まだ3時を過ぎたばかりだが風が強いので車内でビールを飲みながら写真の整理などをする。今朝作ったほっけの煮つけがメチャ旨い。なめこモズクや白菜の漬物もビールの肴として車内でのおんぼり過ごし6時過ぎにコーヒーで閉めて夕食がおわった。明日は若干天気は回復するらしいがその後はまた天気の良い日が続くらしい。明日は桃岩コースを歩いて、そろそろ礼文島を引き上げようかなどと考えながら寝た。



駐車場には車が3台、隣には名古屋の車が止まった。

● 7月14日(火) 霧・曇

桃岩コース

・あさ4時半に目を覚ますと昨日にもまして霧がかかっている。ただ風はおさまったようだ。昨夜隣に居た名古屋ナンバーの車との間に岡山と広島車が止まっている。夜中に来たのだろう。みんな寡黙で何もしゃべらず黙々と朝飯を食っている。7時にはみんなチリジリにどこかへ出かけていった。

・今後当分天気の回復が期待できそうも無いようなので、今日は桃岩コースを歩いてしまおうと決定。香深港の駐車場を目指した出発した。駐車場に止めて車を降りたら、左手の肘の内側に痛みを感じた。袖をまくってみるとそこにはダニが食いついていた。爪で挟んで剥ぎ取り毒を搾り出して傷口を消毒し、テープバンを貼ったがものすごく痛い。ダニは踏み潰したはずだが逃げられたようだ。食堂「たけちゃん」の親父さんに聞いたら「笹に居るダニでよく食われるよ。どってこと無いよ。」で一安心。「毒ダニだったら死ぬかもしれない」と言ったら笑われた。

・天気は徐々に回復の兆しが見える、そろそろ歩き始めるか、今8時。入口にある巖島神社にお参りして散策路に入る。いやあ！なかなか



<朝の駐車公園>



<巖島神社>



<コースは全て霧の中>



<チシマンテマが咲いていた>

花の多いコースだ。取っつきにチシマンテマが咲いている。登るに従って霧の中へ突入し、昨日のような強風は無いが、桃岩、元地灯台

などすべて霧の中で、知床へ下りるまで視界は無かった。ただ全コースとにかく花が豊富、礼文に来たらこのコースを歩かなければ話しにならないと思った。

晴れていればもっとすばらしかったろうと。

レブンキンイソウ、レブンハナシノブの美しい花が印象に残った。



<レブンハナシノブ>



<レブンキンバイソウ>

・11時に知床に下りてそこからは海岸のバス道を約一時間ひたすら歩いて香深港の駐車場まで戻った。全コース霧の中だったが今日も雨に降られずに歩くことが出来た。これで礼文岳を除いて礼文島は全島全て歩いたことになった。礼文岳は一昨年快晴の中を登っているし、これから天気が悪い日が続くそうなので無理して登る必要も無い、明日礼文島を離れて稚内へ戻ることにした。フェリーターミナルで明朝8時45分発のフェリーの予約を取った。



<アザラシが一頭>

・まだ昼を過ぎたばかり、時間がたっぷりあるので北のほうへ車で行って見ることにした。まず先日バスの中から見たアザラシの群をまた見てみようとして船泊へ車を走らせた。

今日は天気が悪く日が照っていないので岩の上に上がっているのは一頭しかいなかった。

礼文空港へ寄って見たら、なんと閉鎖されていて草ぼうぼう、ターミナルビルは固く閉ざされている。一昨年は飛行機が飛んでいたのに「兵どもが夢のあと」曇って風が強くて寂しいかぎり。ただ高台にあつて障害物が何も無いので風当たりは強いが眺めは抜群だ！



<礼文空港は閉鎖されていた>



・久種湖畔の公園で一人寂しくコーヒーを沸かして飲んでいたら、おじさんが自転車で花壇を手入れしにやってきた。花の話や公園の話などいろいろ話した。帰り道「高山植物園」へ寄ってみた。入場料300円と安い割には礼文島の高山植物が豊富に栽培されていて、十分満足させられた。特に見学者のためにレブンアツモリソウを開放させて植えてくれてあったのには感激した。受付のお姉さんにもいろいろ教えていただいた。



＜レブンアツモリソウが咲いていた＞

・3時前に定住地の「駐車公園」へ着いた。今日は盛りだくさんの行動をしたのにまだ3時、天気は悪いが礼文島の最終日を飾る充実した一日だった。まだ早いので私の車一台のみ、キャベツ、タマネギを切って夕食の準備に取り掛かる。パソコンに今日の写真を取り込んでから、ホッケの煮付けとなめこモズクで礼文島最後の夜の乾杯。4時半にはかなり出来上がってきた。隣に昨夜も泊まっていた広島のご夫婦が今夜もやってきた。天気が良くなるまで礼文島で頑張るとのこと、いつになることやら。霧雨が降ってきて寒くなったので車の中に逃げ込み、キャベツ、タマネギ、チャーシュー入りラーメンで夕食。

・右隣に名古屋ナンバーのディーゼル車がやってきた。誰も降りてこないどころか、エンジンをかけっぱなしでうるさい、とんでもないやつだ！ 私は出来上がっているので気にせず寝に入った。今6時、外は明るい霧雨が降っている。